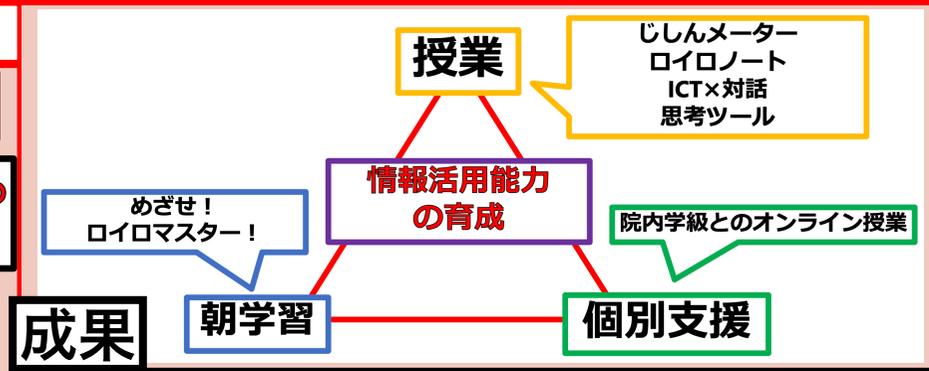
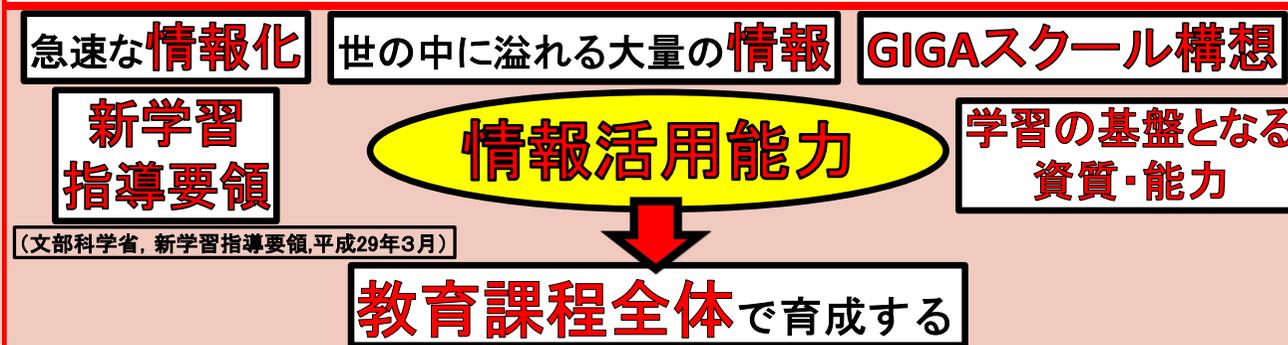


情報活用能力の育成を目指した授業実践

教育実践コース U20C213F 長谷川拓海

1.なぜ情報活用能力？



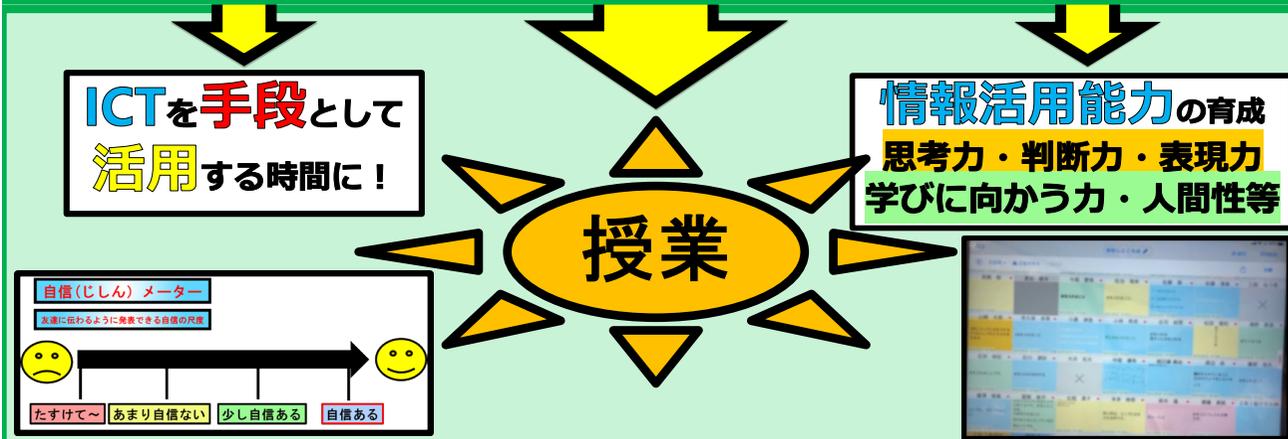
2.朝学習を活用した情報活用能力の育成



成果

- ①朝学習(約15分間)×7回を通して、全ての児童が一定のICT活用スキルを身につけることができた。
- ②タブレット操作において、児童間で特にスキル差が生じる部分はテキスト入力(ローマ字)であることが分かった。
- ③15分という短い時間でスキル習得を行うからこそ、児童間のスキル差が広がることなく、全ての児童が一定のICT活用スキルを身につけることができると分かった。
- ④朝学習の帯にICTを目的とした時間を設け、情報活用能力の知識及び技能部分を鍛えてから授業に臨むことで、授業での目的化を回避し、ICTを手段として活用することができた。

3.情報活用能力の育成を目指した授業実践



- ①“じしんメーター”付き提出箱を活用することで全員が自信を下げることなく、情報活用能力の思考力・判断力・表現力等、学びに向かう力・人間性等を育むことができた。
- ②自信がない人こそ有効に活用することができるよう支持的風土を醸成した上で“じしんメーター”を活用することが必要不可欠であることが分かった。
- ③“じしんメーター”(ICT)×対話を行う際に、自信がない人から対話を始めることで教え込みの対話を防止できると分かった。
- ④ICT活用スキルを身につけたうえで、授業で活用することで授業内で支援すべき児童に働きかける時間がより生まれた。

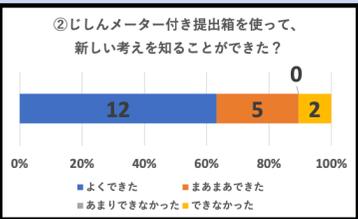
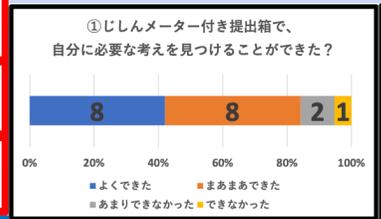
4.結論及び考察

◎朝学習でICT活用スキルを習得した後に授業で活用することでICTの目的化を回避することが可能！

目的と手段の**分離**

ICT活用スキルの格差**減少**

利用から**活用**へ



課題

- ①“じしんメーター”を使う際、予想部分での活用ではなく、実験後の考察部分に活用する方が効果的だったことが分かった。したがって、深める場面を考えた上で“じしんメーター”を使用する必要がある。
- ②全校に対して、情報活用能力に関するアンケートを作成して、長期的な変化を見ていく必要がある。

院内学級の児童がロイロノートで描いた絵



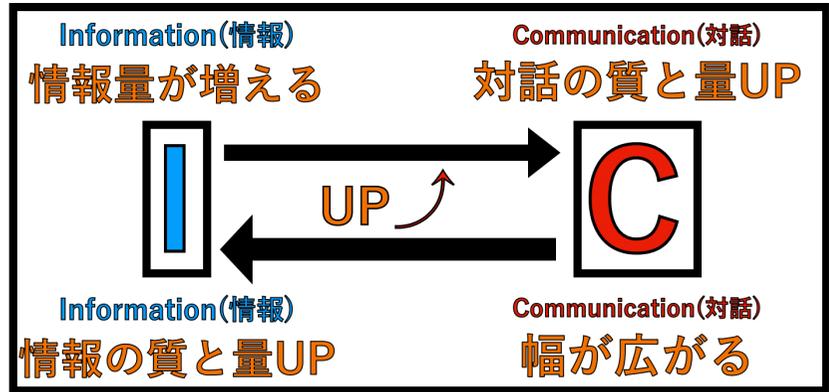
成果

- ①院内学級の児童に対して、ZOOMとロイロノートを活用してオンライン授業を行い、遠隔での個別授業を実現した。
- ②オンラインでありながらもロイロノートに関する基礎スキルを楽しみながら身につけることができた。

一人一台端末環境下における対話の質を高める授業実践

M2での実践

IとCの質と量が相乗効果でUPする！



- ①2学年・3学年に対して、ICT活用スキル習得実践(朝学習)(2学年以上の全ての児童にICT活用スキル習得実践終了)
- ②4学年国語科において「一人一台端末環境下における対話の質を高める授業実践」
- ③全校児童に対して情報活用能力に関する調査(タブレットアンケート)を定期的実施